

災害の備えは町を知ることがスタート!

自主防災マップ



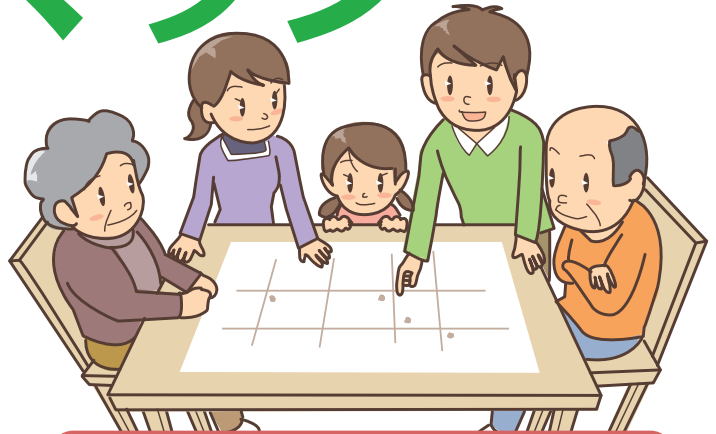
最寄りの避難所や、資材が置いてある防災倉庫ってどこにあったかな。



学校に行く途中に危険な場所はあるのかな。



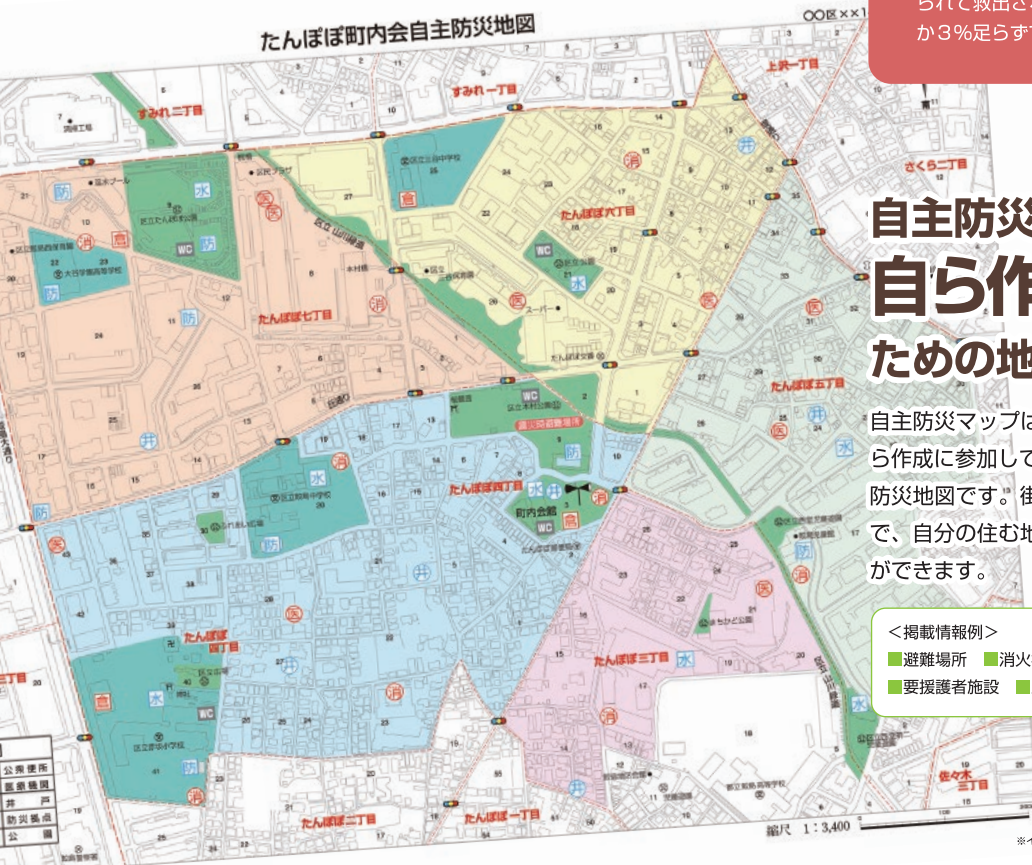
困ったときに頼れる人はどこにいるんだろう。



もしものときに素早い避難活動や救助活動を行うためには、日頃から地域住民同士で情報を共有し、災害が発生した際に各々が適切な行動をとることが重要です。そのようなときに、必要となるのが「自主防災マップ」です!

92%

各地で「自主防災組織」活動の重要性が推奨され、活発化しています。1995年、阪神淡路大震災の時に生き埋めや閉じ込められて救出された人のうち専門の救助隊に救助された人はわずか3%足らずで、約92%は家族や友人、隣人に助けられました。



自主防災マップは 自ら作成し、自らを守る ための地図です

自主防災マップは、町内会など自主防災組織単位で、町内住民自ら作成に参加して作る『自分たちで、自分たちの身の安全を守る』防災地図です。街をよく知る地域の方々々が地図作成に携わることで、自分の住む地域のことを理解しながら防災意識を高めることができます。

<掲載情報例>

- 避難場所 ■消火栓 ■防火水槽 ■狭い道 ■ため池 ■ガソリンスタンド
- 要援護者施設 ■人通りの少ない道 ■防災資機材庫 ■過去の防災情報 など

こんなお悩みありませんか?

- 防災マップを作りたいが、どのように作っていいかわからない。
- 消火栓など災害に役立つものや、危険なことを事前に知っておきたい
- 作成にあたり地域住民で調査することにより、住民の関心を図りたい
- 防災訓練を行う際、共通認識できる資料が欲しい
- 自主防災組織活動補助金の有効的な使い道を検討したい

ゼンリンが解決いたします!

ゼンリンでは、全国の多くの自治会の自主防災マップを制作をしております。多くの実績と、住宅地図づくりで培ってきた長年のノウハウをベースに、制作や印刷だけでなく、ご予算に応じた提案や、マップの作成の際の適切なアドバイスなど、お客様の状況に合わせたサポートもご提供いたします。